

さいごに



第 7 章まで、MTIVS という物差しを、できるだけ具体的にお渡ししてきました。

ここまで読み進めてくださった時点で、かなりの量を受け取っていただいたと思います。

本当にありがとうございます。

最後に、技術の話ではなく、この Brain を通して本当にお伝えしたかったことを書きます。

ここから先は、MTIVS の手順というより、本棚運営を続ける意味の話です。

数字の先に、判断軸を残す

この Brain のタイトルには、『月 50 万円』という数字が入っています。

もちろん、この数字は、誰にでも同じように再現できる保証ではありません。

ただ、私が実際に本棚を運営してきた中で、そこに近づくための判断軸は、かなり具体的に言語化できたと思っています。

この Brain で持ち帰ってほしいのは、数字そのものだけではありません。

次に何を書くかを、自分の判断軸で決められる状態です。

AI のおかげで、速く書くこと自体には、もう困らない時代になりました。

だからこそ、速く書けることよりも、何を書くかを決められることのほうが、これからの本棚運営を左右します。

MTIVS は、そのための物差しでした。

市場を見て、読者を絞り、材料を集め、自分の価値を確かめ、タイトルと中身の約束をそろえて出す。

この 5 つを自分の頭で回せるようになると、次に何を書くかで迷う時間は、かなり減ります。

少なくとも、勘だけで次の 1 冊を決める状態からは抜け出せます。

市場の波に乗ること自体は、大事です。

本編の M でお伝えした通りです。

ただ、判断軸がないまま波にだけ飛びつくと、外して、また次の波を探して、という繰り返しになる可能性があります。

判断軸があれば、同じ波でも、自分の T や V に引き寄せて、本棚に活かせるようになります。

自分の判断軸で、自分のペースで本棚を育てていける。

それが、この Brain で本当に渡したかったものです。

数字の先に、判断軸



本棚を育てることは、選択肢を増やすこと

前作の Brain の第 1 章で、『スマート FIRE』という概念について書きました。

スマート FIRE とは、ただ早く会社を辞めることではありません。

会社に残ることも、辞めることも、自分で選べる状態を作ることです。

会社に依存しない選択肢を持つこと。

その選択肢が、日々の自律性と安心につながるという話です。

ここでは中身は繰り返しません、1 つだけ。

お金は、手段です。

目的は、その先にある「選べる状態」のほうです。

本棚が育つというのは、ただ印税が増える、ということではありません。

1 冊の本の当たり外れに、一喜一憂しなくてよくなる。

会社の給料だけに、生活を預けなくてよくなる。

「辞めてもいい」という選択肢を、自分の手元に少しずつ積み上げていく。

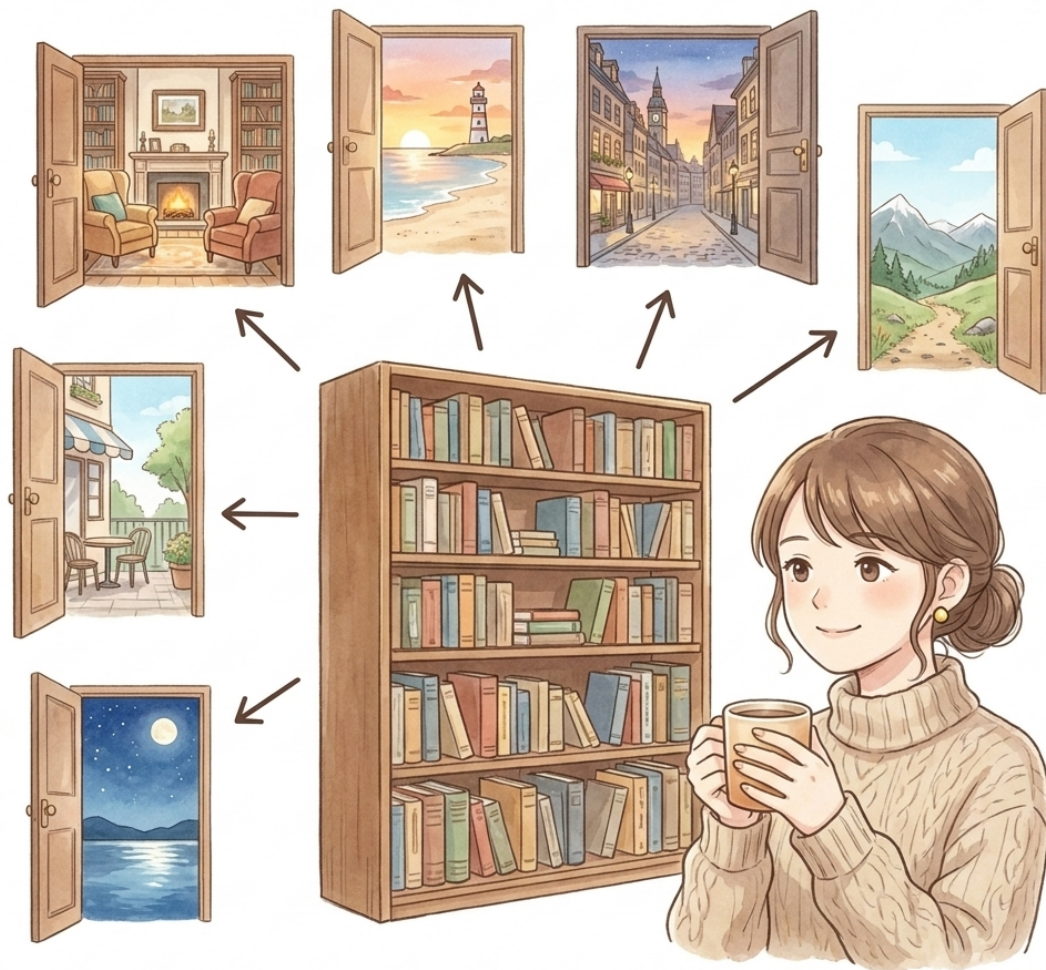
本棚運営は、その選択肢を増やしていく営みだと、私は思っています。

1 冊 1 冊の数字に振り回されていた頃の私は、新刊を出すたびに、何度も KDP の印税の画面を確認していました。

今は、夜にビールを飲みながら、月に一度、本棚全体の数字を落ち着いて見て、次の一手を考えるくらいです。

毎日 KDP の印税の数字を眺めても、それだけで印税が増えるわけではありません。

見るべきなのは、1 冊ごとの上下ではなく、本棚全体の流れです。



本棚を育てる＝選択肢を増やす

あなたの本棚は、あなたのもの

私は、ただ稼げる人を増やしたいだけではありません。

Kindle 出版を通じて、人生を自由に選択できる人が増えたらいいな、という気持ちで、この Brain を書きました。

幸せのかたちが人それぞれであるように、本棚の作り方も、ひとつではありません。

ジャンルも、得意なことも、使える時間も、書きたいものも、みんな違います。

だから、この Brain に書いたやり方を、そのままなぞる必要はありません。

私の本棚と、あなたの本棚は、違います。

ジャンルも、得意なことも、使える時間も、書きたいものも、人それぞれです。

MTIVS という物差しは渡しましたが、その物差しをどう当てるかは、あなたの判断です。

この Brain の事例は、AI の話が多くなりました。

でも、MTIVS という物差し自体は、どんなテーマの本棚にも使えます。

英語学習でも、子育てでも、料理でも、考え方は同じです。

市場を見て、読者を絞り、材料を集め、自分の価値を確かめて、タイトルと中身の約束をそろえて出す。

あなたの本棚を、あなたの判断軸で育てていってください。

「次に何を書こうか」と考える時間が、あなたにとって、少しワクワクする時間になったなら。

そこまで届いていたなら、この Brain を書いてよかったと思えます。

ここまで読んでくださって、本当にありがとうございました。

いつか Amazon で、あなたの本が何冊も並んでいるのを見つける日を、楽しみにしています。

黒川 葵



いつか、あなたの本に出会えますように

本編を読んでレビューを書いちゃった方へ、3 つの特典を用意しました

最後まで読んでくださったあなたに、3 つの特典を用意しました。

本編で渡した判断軸を、実際の本棚運営で使えるように。

そして、私の数字と思考プロセスを、できる限り生のかたちで見ただけのように。

そんな想いで作りました。

特典① 気になる 1 冊の MTIVS 深掘りプロンプト ～KDP 推移とレビューから、次の一手を見つける AI 編集会議～

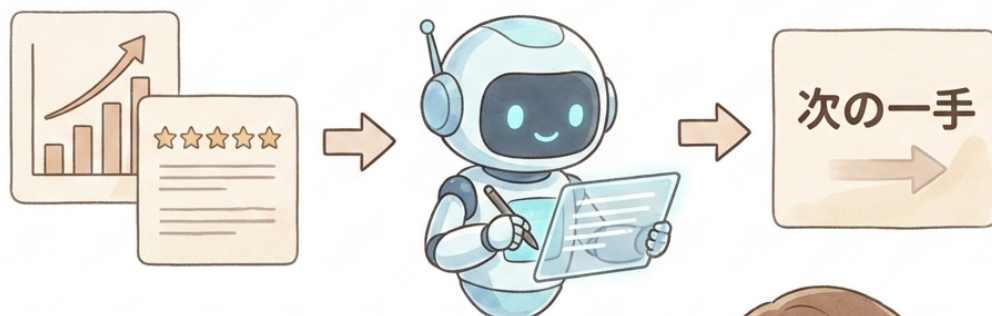
出版したあとの「答え合わせ」を、AI と一緒にやるためのプロンプトです。

KDP の推移と Amazon レビューを貼ることで、その本を編集長の視点で読み解く補助をしてくれます。

市場・読者・材料・価値・出荷時の約束(タイトル・表紙・紹介文・本文の整合)という観点から、その本の強みと、ズレているかもしれない場所を示し、続けるか・追記するか・改題するか・続編を書くか・止めるか、次の一手まで返してくれます。

本編・第 7 章でお伝えした「出版後に本棚を学習させる」を、あなたの本でそのまま実行するための道具です。

特典① 深掘りプロンプト



特典②「葵の全書籍別、月別売上推移(2026 年 4 月まで)」

私の出版済みタイトルについて、月別の Kindle 関連収益の推移を、Amazon KDP の規約や表示ルールに配慮した範囲でまとめて公開します。

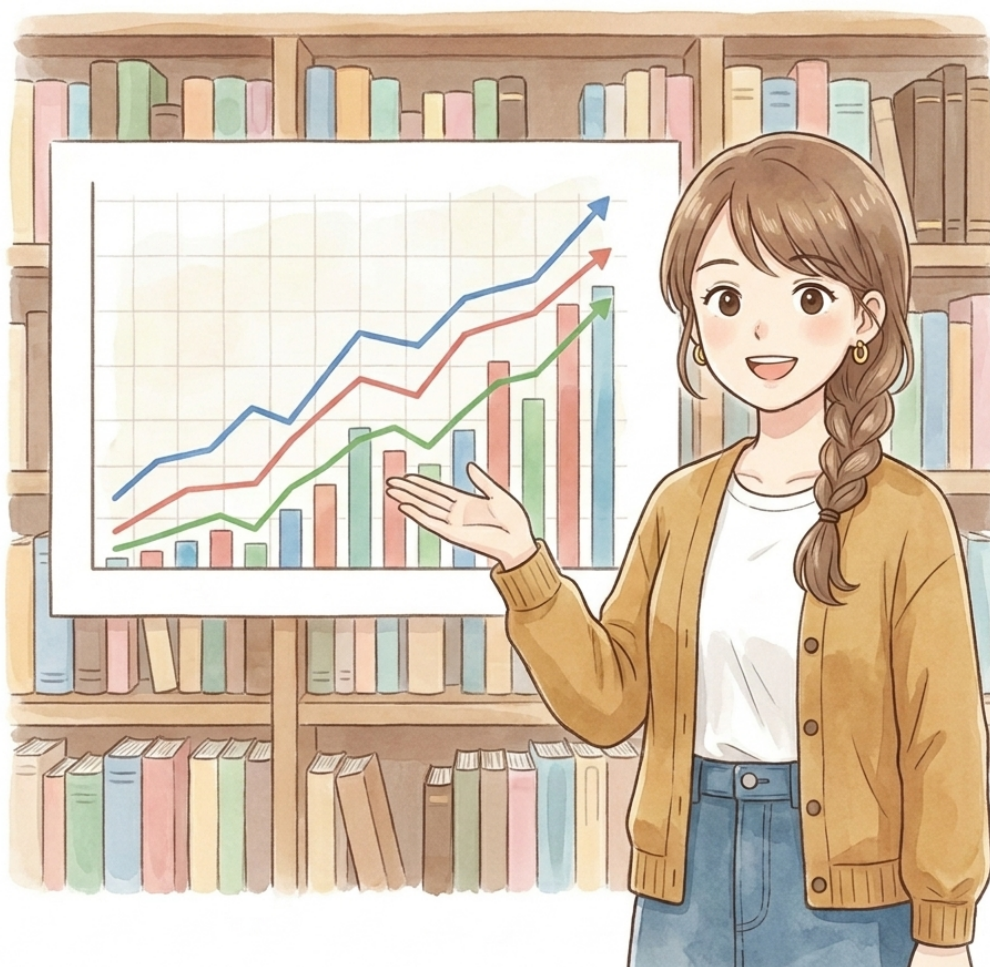
具体的な開示範囲は、規約や管理画面の表示内容に配慮しながら調整します。

どの本が主力で、どの本がロングテールとして本棚を支えているのか。

本編で語ってきた本棚運営が、実際にどんな数字の集合として成り立っているのかを確認していただけます。

前作の Brain の特典「タイトル別の印税と KDP ボーナスを月単位で公開」を、月 50 万円到達時点までアップデートした位置づけです。

特典② 売上推移（最新版）



特典③ 1冊の本ができるまでの、実録会話ログ(抜粋) ～テーマ決定、骨子、執筆レビューまでの編集判断を追体験する～

私が実際に1冊の本を作るときに、AIとどんな会話をして、テーマを決め、骨子を作り、原稿を磨いていったのか。

その思考プロセスを、実録の会話ログとしてお見せします。

ただの会話ログではなく、「なぜそのテーマにしたのか」「どこで止めかけたのか」「どの判断で前に進めたのか」が分かるように、要所には補足コメントも入れています。

なお、会話ログは原文そのままではありません。

読みやすさを保つために、一部の表現は整えています。

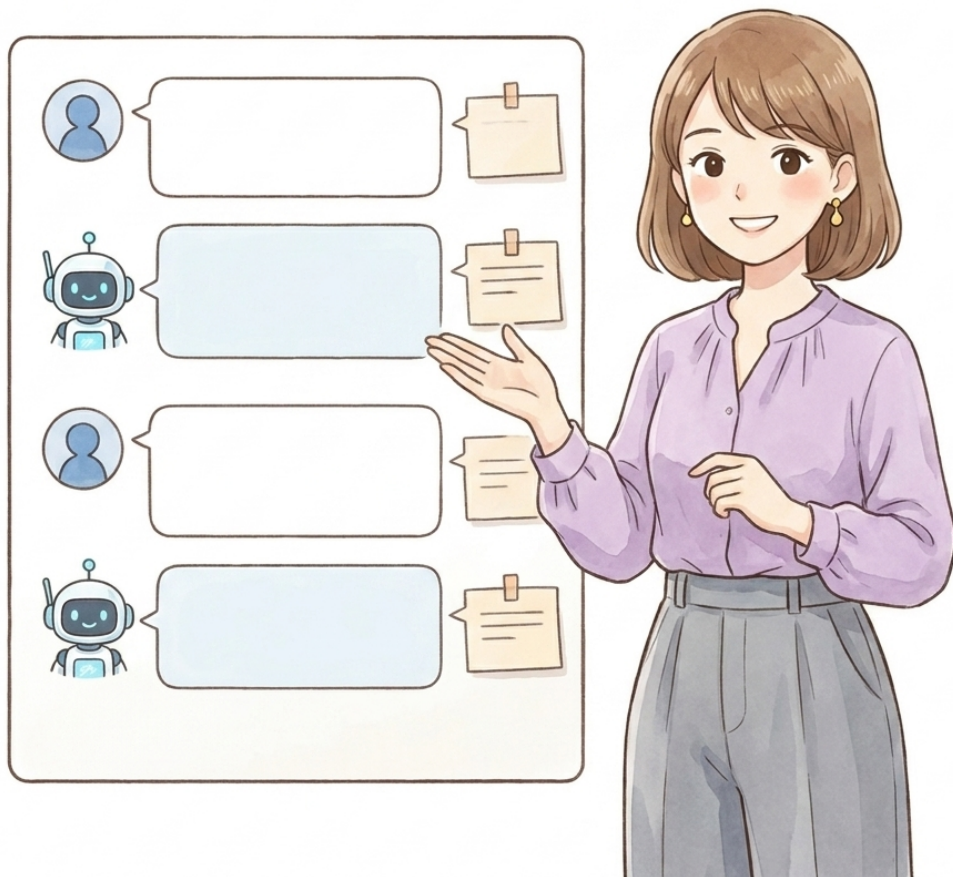
個人情報、不要な雑談、具体的すぎる金額表記なども、最小限の範囲で調整しています。

ただし、判断の流れや、AIとのやり取りの骨格は残しています。

本編で説明したMTIVSの判断が、実際の会話の中でどう動いているのか。

完成した本からは見えない、決める前の思考の中身を、のぞいていただけます。

特典③ 実録会話ログ



特典の受け取り方

特典は、この Brain のレビューを書いてくださった方にお送りします。

ステップ① この Brain のレビューに、あなたの素直な感想を書いてください。

学びになったこと、やってみようと思ったこと。

あなたにとって価値があったと感じた部分を、ぜひ教えてください。

具体的すぎてネタバレにならないよう、ご配慮いただけると助かります。

ステップ② 以下のフォームに、レビューを書いた際の「ユーザーネーム」「レビュータイトル」「メールアドレス」を記入して、申請してください。

<https://aoi-kurochan.com/p/r/IHCucaHp>

ステップ③ ご入力いただいたメールアドレス宛に、特典をお送りします。

Brain 上のユーザーネームと照合して、確認できた方へ特典をお送りします。

ご入力いただいたメールアドレスは、特典送付と連絡のために使用します。

それ以外の目的では使用しません。

まれに、特典メールが迷惑メールフォルダに入ってしまうことがあります。

届かない場合は、迷惑メールフォルダも確認してみてください。

①レビューを書く



②フォームに登録



③メールで受け取る

